

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 美浦村

自治体名：茨城県美浦村

担当課名：生涯学習課

電話番号：029-885-4451

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	66.61 km ²
人口	14,121 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	274 人
部活動数	13 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、本村の運動部活動は、軟式野球部、サッカー部、ハンドボール部、ソフトテニス部、バレー部、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、卓球部、剣道部、柔道部が活動している。

少子化に伴い、団体競技である軟式野球については、近隣市の中学校と合同チームによる活動が行われており、昨今の出生者数を見ると軟式野球部はもとより、団体スポーツの将来的な存続は難しいものと考えている。

これらのことから、令和5年12月に部活動地域移行方針が示され、本村では既存部活動の地域移行を進めるとともに、これまでの部活動にはなかった種目の新たなクラブを発足させ、生徒の選択肢が拡大するような地域移行を進めていく。

しかしながら、長年にわたり部活動は、学校教育の一環で運営するものという考えが生徒、保護者、地域に根付いているため、今後、地域移行を進めるにあたっては、部活動が教育課程

以外のものであることを関係者に認識させること、また、本村は小規模自治体であることから、行政、学校、地域を調整するコーディネーターやクラブ指導者の掘り起こしや確保について大きな課題であると考えている。

2.実証内容と成果①

主な取組

美浦村公認地域クラブ

令和6年3月に開催された、第4回部活動在り方検討委員会に於いて、「美浦村公認地域クラブ制度」を推進して、部活動の受け皿となり得る、団体を育成・支援をすることした。

「美浦村公認地域クラブ認定要綱」に基づき、公認地域クラブの認定を行い、認定を受けた地域クラブが、単位クラブで掲げた活動方針のもと、児童生徒にスポーツや文化活動の新たな機会を提供する。

村としては、この認定した地域クラブが円滑にクラブ運営が図れるよう、社会教育施設や体育施設の使用料を減免するなど、単位クラブの円滑な運営を支援し、持続可能な地域クラブの育成を目指す。

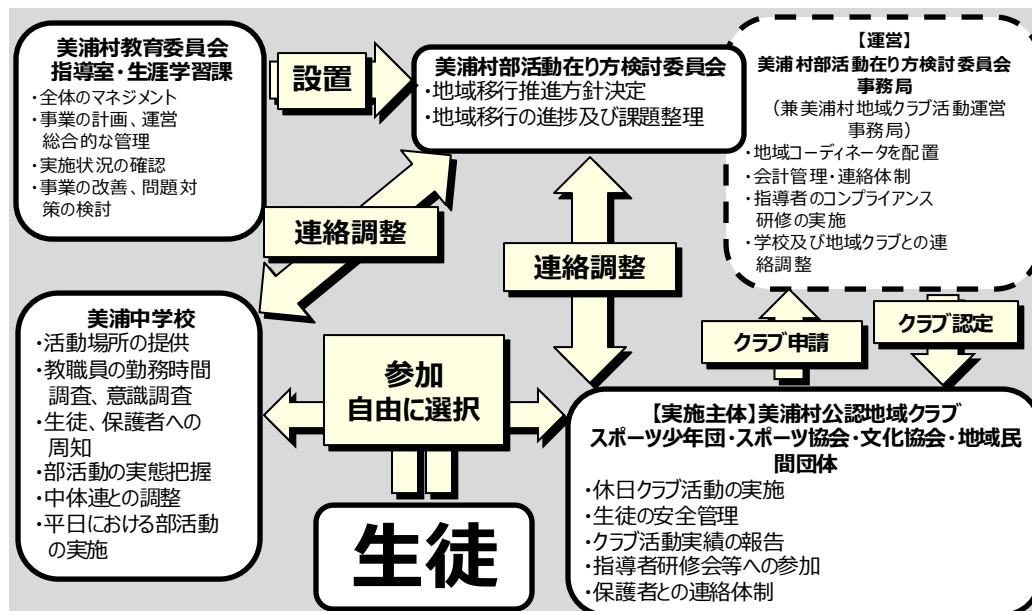
美浦村公認地域クラブ位置付け

	学校部活動	地域クラブ	クラブチーム（民間）
参加形態	学校単位	地域単位	自由選択
目的	・学校教育活動の一環 ・学習意欲の向上、連帯感の涵養等 ・技術向上	・社会教育活動の一環 ・持続可能なスポーツ・文化活動の展開 ・専門性のある指導による技術向上	専門性のある指導による技術向上 ※クラブの方針により多様な目的設定
費用	費用負担：小 公費＋保護者会費 ※学校や部の実情により差がある	費用負担：中 受益者負担（R6、7は公費で一部負担） 2,000円～5,000円/月 を想定	費用負担：大 受益者負担 1万円程度/月 が多い
保険	スポーツ振興センター給付金（920円）	スポーツ安全保険（800円）	クラブ指定の保険
指導者	教員が中心 ※競技経験、指導経験の有無に無関係	地域のスポーツ少年団等の地域人材 ※競技経験、指導経験を有する指導者	専門的なスキルを有する指導者
指導資格	教員免許または競技経験者、指導経験者	競技経験者、指導経験者の中で中学生の健全 育成に努める者 ※必要な研修を受けた者	各クラブ規定による

2.実証内容と成果②

運営体制・役割

●運営体制図（美浦村における推進体制図）



●組織内での役割分担

◎教育委員会

<生涯学習課>

・全体マネジメント ・事業（公認地域クラブ）の計画、運営及び総合的な管理

<指導室>

・部活動運営方針の改訂支援 ・計画及び運営に対する指導助言

◎首長部局

<総務課>

地域住民への広報

年間の事業スケジュール

令和6年3月	第4回 部活動在り方検討委員会
令和6年4月	スポ少等の地域団体調整
令和6年5月	美浦村公認地域クラブ募集
令和6年6月	美浦村公認地域クラブ募集 美浦村公認地域クラブ申請・認定
令和6年7月	美浦村公認地域クラブ募集 美浦村公認地域クラブ申請・認定
令和6年8月	美浦村公認地域クラブ活動開始 第5回 部活動在り方検討委員会
令和6年11月	指導者安全管理講習会
令和7年3月	第6回 部活動在り方検討委員会

2.実証内容と成果③

美浦村公認地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	7 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		6 クラブ

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
美浦ホースクラブ	公認地域クラブ	乗馬等	毎週土曜日 30回	9時～ 12時	小学生10名 中学生2名	令和6年 8月～	村内乗馬施設	8 人	8 人	月会費 5,000円 年会費 3,000円	クラブ参加
美浦フィッシングクラブ	公認地域クラブ	釣り	隔週土曜日 10回	9時～ 12時	小学生8名 中学生2名	令和6年 8月～	霞ヶ浦湖岸	8 人	8 人	月会費 5,000円 年会費 3,000円	
美浦フリースケートクラブ	公認地域クラブ	フリースケート	毎週土曜日 30回	9時～ 12時	小学生8名 中学生2名	令和6年 8月～	安中多目的施設	8 人	8 人	月会費 5,000円 年会費 3,000円	クラブ参加
美浦バレーボールクラブ	公認地域クラブ	女子バレー	0 回	9時～ 12時	応募者なし	令和6年 8月～	農林漁業者TC	3 人	3 人	月会費 5,000円 年会費 3,000円	部活で中体連
硬式野球クラブ美浦	公認地域クラブ	硬式野球	隔週土曜日 10回	18時～ 21時	小学生5名	令和6年 8月～	晴天スタジアム	7 人	8 人	月会費 2,000円	教室のため不参加
美浦ゴルフクラブ	公認地域クラブ	ゴルフ	0回	18時～ 21時	応募者なし	令和6年 8月～	打ちっぱ	3 人	3 人	月会費 5,000円 年会費 3,000円	
ジョイスぽ	公認地域クラブ	総合スポーツ	0回	9時～ 12時	応募者なし	令和6年 8月～	美浦中学校	5 人	6 人	月会費 5,000円 年会費 3,000円	

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

学校部活動にない地域クラブについては、6団体発足することができ、当初の目標値を2団体としていたことから、目標値を大きく上回ることができた。

コーディネーターの配置も、現職の社会教育指導員（会計年度任用職員）の勤務日数を増やすなどして、適任者を配置させることができた。

その一方で既存部活動の移行を円滑に進めることができなかった。

既存部活動の受け皿に想定していたスポーツ少年団等が、本村が推進する公認地域クラブにマッチすることができなかったことが、1番の要因としてあげられる。

また、令和7年8月までは既存部活動が土日のどちらかを活動日としていることから、地域クラブの土日の活動日が重複してしまうことや、重複しなくてもオーバーワークになることが懸念されるなど、生徒たちが敬遠するような状態となっている。

●成果の評価

学校部活動にない公認地域クラブについては、目標を大きく上回り、また、地域人材や資源を活用したクラブが発足したことは高く評価できるものとする。

目標を大きく上回った要因としては、コーディネーターとして配置した、現職の社会教育指導員（会計年度任用職員）が中心となり、スポーツ少年団等との団体調整が図れたことが挙げられる。

しかしながら、部活動の地域移行で最も重要視されている、既存部活動の移行がほぼ進捗していない状況については、早期に改善策を検討する必要がある。

●今後に向けて

学校部活動にない公認地域クラブについては、これまで同様に推進して、各種スポーツクラブが立ち上がるよう、団体の育成支援に引き続き取り組んでいく。

既存部活動については、令和7年8月以降にスムーズに土日の活動が移行できるように、学校と連携をこれまで以上に強化していかなければならない。

また、受け皿となり得るスポーツ少年団等ともコーディネーターを中心に対話を重ね、不安要素をひとつひとつ排除するなど、単位少年団に寄り添うとともに、スポーツ少年団本部としても地域移行に取り組む体制の整備を図る。

2.実証内容と成果②

広報資料

美浦村公認地域クラブ通信 No.1

令和6年7月5日発行
美浦村教育委員会生涯学習課
(美浦村中央公民館)
美浦村大字受領 1460-1
TEL: 029-885-4451
FAX: 029-885-7015

いよいよ美浦村公認地域クラブが開始!

美浦村公認地域クラブは、部活動を学校に任せるだけではなく、地域全体で中学生のスポーツや文化活動を支えていくために発足。美浦村教育委員会から認定を受けた、今までの部活動にはなかった、多種多様なクラブが活動をスタート! 各クラブとも、部活動において制限された土日を中心にした活動で、部活動との両立も可能。また現在、部活に所属していなくても、興味関心のあるクラブを見つけてこの機会に挑戦してみよう!

中学生のみならず、小学生が対象となるクラブも多数あるので、小学生も一緒にチャレンジ。中学生も小学生も、まずは体験会へGO!!

文化系クラブ

美浦村ボランティアクラブ

<対象者> 中学生以上
<場所・日時> 美浦村内 ◆随時
(各イベント会場・企業ほか)
<会費> 1,000円/年

<代表者> 佐藤 十枝
(みほっこ56)

<活動内容>
村内のイベントや企業でのボランティア活動への参加
<ひとこと>
「美浦村もりのあけ祭」大募集!
美浦村で開催される様々なイベントにボランティア活動をしながら参加して、中学生の力で美浦村を盛り上げていきましょう!

県南吹奏楽クラブ

<対象者> 中学生以上
<場所・日時> 美浦村中央公民館 大ホール
◆毎週土曜日午後
<会費> 2,000円/月

<代表者> 佐藤 敬行
(河見吹奏楽団)

<活動内容>
吹奏楽・演奏活動
<ひとこと>
美浦の音楽を通して、仲間と音楽を楽しみましょう。
楽器ごとに専門のトレーナーから直接指導も受けられます。

美浦村本原園子

<対象者> 小学生以上
<場所・日時> 木原多目的集会所 ◆毎週土曜日 10時~12時
<会費> 小学生 無料・中学生 1,000円/年
18歳以上 2,000円/年
保険料 800円

<代表者> 知久 涼兵

<活動内容>
お園子の練習
お園子を通して地域貢献(お祭り等での披露)
<ひとこと>
お祭りを楽しみたい方、お園子を楽しみたい方、大歓迎です! 小太鼓や大太鼓の音色を一緒に教えてくれる指導員がいますので安心して参加してください!

美浦コーラスクラブ

<対象者> 小学4年生~中学3年生
<場所・日時> 美浦村中央公民館 視聴覚室
◆第2・4日曜日 13時半~15時
<会費> 1,000円/年会費・1,000円/月会費
※顔合わせは各自

<代表者> 小澤 南子

<活動内容>
声楽の基礎学習や発声練習から会場まで
みほ音楽フェスティバル等の各種発表会に出演
<ひとこと>
初心者大歓迎! 発声の基本を学び、みんなで歌う楽しさを体験してください。一緒に素敵なハーモニーを奏でましょう!

体験会・説明会の申込~正式入会まで

◆下記申込書に必要事項を記入して、美浦村中央公民館に提出◆

◆各クラブより、申込者および日程の詳細を連絡◆
※公民館に提出された申込書は希望クラブと共有します。

◆体験会等に参加◆

◆入会を希望する場合、クラブ内で手続きをして入会完了! ◆

キリトリ

<美浦村公認地域クラブ 体験会・説明会申込書>

希望クラブ名 (複数可)	
ふりがな	
申込者氏名	
学校名・学年	学校 年
保護者氏名 (姓・名)	()
保護者連絡先	
住所	

スポーツクラブ

美浦フィッシングクラブ

<対象者> 中学生・小学生(保護者同伴)・高校生
<場所・日時> 座席: 美浦村週末カフェ ほか
フィールドワーク: 大山エリア中心の霞ヶ浦周辺
◆毎月2回(土曜日) 午前中3時間
<会費> 2,000円/月 その他利用費として1,000円程度(都度)

<代表者> 村川 勇介
(美浦村地域こし協力隊)

<活動内容>
霞ヶ浦の魚や自然を教材にし、釣りを通じて青少年の健康な心を育てる。
<ひとこと>
釣りの経験は必要なし! 霞ヶ浦での釣りを楽しみましょう。霞ヶ浦を熟知した釣りのプロが講師として指導するので気軽に参加してください。

美浦ホースクラブ

<対象者> 村内在住の中学生・小学生(1~4年生は保護者同伴)~大人
※村外の方は、村内の方の応募状況に応じて募集
<場所・日時> プリコラージュ・村内の馬関係施設
◆毎週土曜日 9時~12時※夏季期間あり
<会費> 5,000円/年会費・3,000円/月会費

<代表者> 阿部 彩希

<活動内容>
馬とのふれあいや乗馬作業、馬業界で働く人たちの交流を通してホースマンシップを学習。
<ひとこと>
馬を知ってもらえるクラブです。馬に関係することなら何でもチャレンジしてみよう! 様々な馬のスペシャリストも参加予定。

美浦V・C

<対象者> 小学生以上
<場所・日時> 美浦村内施設
◆毎週土・日曜日 9時~12時
<会費> 2,000円/月

<代表者> 山西 博

<活動内容>
バレーボール
<ひとこと>
経験者はもちろん、未経験の方も大歓迎!! バレーを通して体力や技術を身につけましょう。見学・体験いつでもお待ちしております。

美浦村フリースケートクラブ

<対象者> 小学生以上
<場所・日時> 安中多目的集会所 多目的ホール
◆第2・4土曜日 9時半~12時半
<会費> 2,000円/月
※フリースケートギアの購入およびリース料別途

<代表者> 藤田 巨樹
(UMKROD)

<活動内容>
フリースケートのレッスン
<ひとこと>
のびのびもスイスイ進む、新感覚のローラースポーツを今すぐ始めよう! 世界大会が毎年開催される国内外で注目度が高まっています。

硬式野球クラブ美浦

<対象者> 小学6年生~中学3年生
※主として所属チームがある場合は、所属の監督等と事前相談のうえに参加ください
<場所・日時> 晴大スタジアム美浦(日光と鳥の丘公園野球場)
◆第2・4土曜日 18時~20時 ※1~2月は活動休止
<会費> 1,000円/年会費・2,000円/月会費
※グローブ(軟式用)はご準備ください

<代表者> 石川 大志

<活動内容>
硬式野球の打撃および守備練習のほか、野球全般のルールやスポーツマンシップを学習
<ひとこと>
野球経験は必要なし! 硬式野球のおもしろさや魅力を体験してください。指導者はボーイズリーグ「江戸崎ボーイズ」の指導者とOBの大学生です!

ジョイすぽ

<対象者> 中学生
<場所・日時> 美浦中学校体育館
◆毎月2回(土曜日) 15時~16時半
<会費> 3,000円/年会費・3,300円/月会費

<代表者> 岡 文雄
(ジョイナスがら)

<活動内容>
トランポリン・縄跳び・スポーツレクリエーション
<ひとこと>
トランポリンではふわっとした感覚と様々な技を楽しみ、アクロバット縄跳びでは大縄やダブルダッチでみんなと協力してできる成功体験やマジシャンのようなロブ跳びに挑戦します! 兼任部活大歓迎!

いろいろなことに
チャレンジしてみよう!!

【美浦村公認地域クラブに関するお問い合わせ】
美浦村中央公民館(月曜・初日休館)
TEL: 029-885-4451

【生徒への参加啓発チラシ】出典: 美浦村教育委員会 生涯学習課

2.実証内容と成果③

美浦村公認地域クラブ紹介 美浦ホースクラブ 1/3

美浦ホースクラブ

本村の地域の特性（競走馬の里）を生かしたクラブとして、乗馬に特化したクラブの立ち上げに取り組んだ。

JRA美浦トレーニング・センターが運営している乗馬クラブとの連携を模索したが、新たな生徒の受入は困難であるとのことから、村内にある乗馬施設と協議を重ねた結果、乗馬に特化したものではなく、馬との共生をテーマとするクラブを立ち上げることができた。

馬を通した青少年育成を目標としているが、最終的には競走馬産業に従事する人を養成し、競走馬産業の活性化を目指して、活動を開始させた。

現在は小学生から大人まで約20名のクラブ員が毎週土曜日に活動し、JRAの現役ジョッキーや装蹄師、獣医師さんなど馬に関わる、その道のスペシャリストから普通の乗馬クラブでは学ぶことができないことを体験している。

中学生については2名の所属となっているが、問い合わせも多いことから今後は増加することを見込んでいる。



にんじんの収穫体験



にんじん栽培



馬具の学習



馬耕訓練

参加生徒の感想（中学生）

美浦村に住んでいるが、馬に触れ合える場所がなかった。

乗馬クラブだと乗馬がメインになるが、このクラブでは現役の騎手などから学ぶことができるので、入会して良かったです。

高校に入学しても続けていこうと思います。

美浦村公認地域クラブ紹介 美浦ホースクラブ 2/3

美浦ホースクラブ
Mihop Horse Club

阿部彩希（あへ・さき）
1988年1月26日生まれ、調教、相馬県出身。小学5年生から、北海道旅行中に訪れたみづがほ王国で体験乗馬をしたことがきっかけとなり、馬の魅力に引き込まれる。中学時代は乗馬少年団に入り、相馬県馬会近くの高校に通学して馬術部に所属。卒業後は福島県・大平ホースパークに就職し、その後、新川馬・小松トレーニングセンター、茨城県・舟ノ岡トレーニングセンターで勤務した。夫はイタリノックスの調教役を務めた本村吉也馬会の阿部孝紀調教助手で、2人の娘がいる。

美浦ホースクラブ代表
阿部彩希さん

「馬の世界に入るための、きっかけの第一歩になれば」

馬の「サモン」さんが体験乗馬など大活躍。現役の騎馬関係者にも協力し、子供たちに馬の魅力を伝える。

もとより彩希さんは「引退競走馬の養老牧場を造りたい」と一人で活動を開始。知人の紹介で現在の拠点となる民間施設に、来てからは教習助手やインストラクターの手帳など、いろいろな人と接した。その中で「これは馬界もやられているので、そういった活動も子供たちと一緒にできたらいいな」との思いも芽生えたという。

美浦村の「公認地域クラブ」代表に
ちょうど同じタイミングで、以前から問い合わせや相談していた美浦村役場から提案があった。今、文部科学省のスポーツ庁が「学校部活動の地域連携、地域クラブ活動への移行」を進めており、部活動が学校単位から地域単位へと変わりつつある。美浦村の中学校も部活動が地域に移行することを認め、「美浦らしく馬をメイン」として公認地域クラブを作りたかったので、その代表を務めていただけないか？」と打診されたのだ。彩希さんは迷わずに承諾した。

「国から補助が出るのは2年間なので、その期間で成果を出した」

◆美浦ホースクラブとは
彩希さんが代表となり、今年の春に「もっと馬を身近に感じてみませんか？」を合言葉に立ち上げた。この夏から美浦村の公認地域クラブとして活動を開始。9月からの本格的な活動に向け、現在は正会員（茨城県内在住の小学1年生以上が対象）を募集している。美浦村とも連携し、将来的には「引退馬と農業・福祉・教育・観光を目的とした乗馬牧場」の設立を目指す。日々の活動報告や写真などはインスタグラムの公式アカウント（@mihop）にてご確認のうえ、お問い合わせください。

「馬業界は全職種が人手不足」
「馬ってどんな生き物なの？」ここで馬の世界を知ってもらうって、馬業界への最初の「一歩を踏み出すためのお手伝いしたい。馬業界の全職種が人手不足。既得員以外にも馬と関わる仕事はたくさんある。そこできっかけに多くの子供たちが馬の世界に飛び込んでくれたら何よりです」

阿部彩希さんは現在、美浦トレーニングセンターにある民間施設の調教員として活動している。まずは競馬の世界の最前線で働く人たちが近くにいる環境を生かしたいと考えた。

「美浦だからこでできることがあります。それが当クラブの魅力。ジョッキー、調教師さん、調教助手や厩務員さん、装蹄師さん、獣医師さん、馬運車の運転手さん馬に關わるスペシャリストの方々をお呼びして、普通の乗馬クラブではできないことを体験してもらいたい。もちろん、新聞記者さん、専門家として」

早速、9月からの本格的な活動に向け、8月12日には体験会が開かれた（次項に詳細）。この施設で余生を送っている引退競走馬の「サモン」さんが体験乗馬など大活躍。現役の騎馬関係者にも協力し、子供たちに馬の魅力を伝える。

人手不足が危ぶまれる馬業界の未来を憂い、「一人の女性が助いた。美浦トレーニングセンターがある茨城県美浦村に在住の阿部彩希さんが立ち上げたのは「美浦ホースクラブ」。子供たちに馬を身近に感じてもらい、その素晴らしいことを知ってもらい、「馬の世界に入るための、きっかけの第一歩になれば」と今年7月に活動スタートさせた。

（取材・文：サンケイスポーツ、板津雄志）

出典：週刊ギャロップ9月1日号（2024.8.26発行）

美浦村公認地域クラブ紹介 美浦ホースクラブ 3/3

美浦ホースクラブ
Mihop Horse Club

北村騎手と西宮員志望の平岡貴太郎

カイバ作り体験

美浦ホースクラブ体験会の動画はZBAT!公式YouTubeチャンネル(QRコード)からご覧になれます

(ペン・カメラ) 和出 寛文

厩務員志望の高校生
みんなが楽しそうな笑顔にあふれていた。
つくば市から参加した平岡貴太郎は高校2年生。将来はJRAの厩務員を志望しているという。体験乗馬の時間中も北村騎手に本馬での実技指導を受け、馬乗りの基礎や体づくりの重要性を個別に質問していた。

「小さい頃、偶然、キタサンブラックの引退レース(有馬記念)をテレビで見ると、つまりました。厩務員の仕事を知り、ここで学ばせてもらったら道が開けるんじゃないかと。実際に参加してみても、身近に感じられたいし、そんなに苦しくありません。必要はないのかもしれないと思いました」

現役のジョッキーからアドバイスを聞いたけたのも貴重です。モチベーションが高まりましたね。
「本人の熱量が伝わってくるので、親と子どもをかなとあげたい」というのが本音。息子の思いを知り、自分自身も去年あたりから競馬を見るようになりました。面白い世界ではあると思います。面白いた

に競馬の世界で活躍するホースマンが誕生するかもしれない。
最後の体験はサモンのご乗車。みんながカイバを渡り、仕上げの作業を手伝った。彩希さんは「子供たちや保護者の方々が楽しそうにしてくれました。それが一番です。北村騎手も「子供たちが笑顔で乗れたらいいな」と言っていました。自分も小さい頃を思い出しました。このような活動には僕自身も賛同します。できることがあれば協力していきたいと思っています」と目を細める。

今夏、パリオリンピックでは総合馬術団体の日本代表が銅メダルを獲得。初老ジャパンの活躍で人馬一体の馬術競技に対する注目が集まる。最近では引退馬の競馬活動にも関心が高まっています。こうした活動によって一人でも多くの子供たちが馬の魅力を知り、馬の世界に進むきっかけになることを願っています。

美浦ホースクラブで体験会を開催 子供たちが乗馬やカイバ作りなど体験

ゲストは北村宏司騎手
立ち上げから数カ月、8月12日には1回目の体験会が開かれた。美浦村をはじめ、茨城県内に在住の子供たちと保護者の十数組が参加。約2時間、体験乗馬やカイバ作りなどの活動を楽しんだ。
日中の暑さを考慮し、体験会は午後4時にスタートした。まずは代表の阿部彩希さんがスピーチ。クラブを立ち上げた経緯や趣旨と自身の思いを語った。当日は児童発達支援施設の関係者や保護者、美浦村地域おこし協力隊の方々と何人も賛同者がサポート。特別ゲストには北村宏司騎手が招かれ、自身の幼少期や経験を元にジョッキーならではの視点で馬の魅力を伝えた。
「大工の父親が趣味で乗馬をしていたこともあり、僕が幼稚園児の頃に実家(長野県)から毎週土曜日に馬舎を建てて馬場も入っていたけど、早稲きし馬に乗ったり、世話して学校帰りに行くのが当時の日課。そんな生活をしながら将来のことを考えるようになり、騎手を目指しました。馬は本来、穏やかで優しい動物。いろんなことが出来る可能性を持っているし、馬に

関わる仕事もたくさんある。ぜひ、この体験会がきっかけで馬に興味を持っていた子供たちにも、馬に詳しくなり、GIジョッキーの言葉には保護者の方々も熱心に耳を傾けていた。
その後、参加者は引退競走馬のサモンと対面。ニンジンをおげながらコミュニケーションを取り、北村騎手による本馬の実演(希望者は体験)と続いた。そして、お待ちかねの体験乗馬(引退馬)へと進み、この日に初めて馬と触れ合った子もいたが、

アドバイスをを受けながら乗馬体験

出典：週刊ギャロップ9月号(2024.8.26発行)

美浦村公認地域クラブ紹介 美浦フィッシングクラブ 1/2

美浦フィッシングクラブ

本村の地域の特性（霞ヶ浦）を生かしたクラブとして、霞ヶ浦での釣りに特化したクラブの立ち上げに取り組んだ。

美浦村には滋賀県の琵琶湖に次いで2番目の面積を有する霞ヶ浦に面している。しかしながら霞ヶ浦で釣りをする地元の児童生徒は非常に少なく、霞ヶ浦に行ったこともない児童たちが増加している。

この状況に危機感を感じている村地域おこし協力隊員でブラックバスのフィッシングプロに村川氏が部活動の地域移行の流れの中、これを絶好の機会ととらえ、フィッシングクラブの立ち上げを行政と共に模索した。村川氏を中心とした釣り仲間から共感を得て、安全対策に十分な指導陣を確保できたことから、霞ヶ浦との共生をテーマとする釣りクラブを立ち上げることができた。

釣りを通した青少年育成を目標としているが、霞ヶ浦などの村特有の地域資源を再認識させ、村への愛着や誇りを醸成することを目指して、活動を開始させた。

現在は児童生徒15名のクラブ員が隔週土曜日に活動し、バスフィッシングプロなどから釣り全般にわたり学んでいる。

中学生については2名の所属となっているが、問い合わせも多いことから今後は増加することを見込んでいる。



参加者の感想（中学生）

中学校3年生でサッカー部に所属しています。

平日は部活動、土曜日はフィッシングクラブで活動しています。

釣りが好きなので、とても楽しく活動しています。

活動場所も村内で自転車で移動できるので、参加しやすく、高校に入学しても継続したいです。

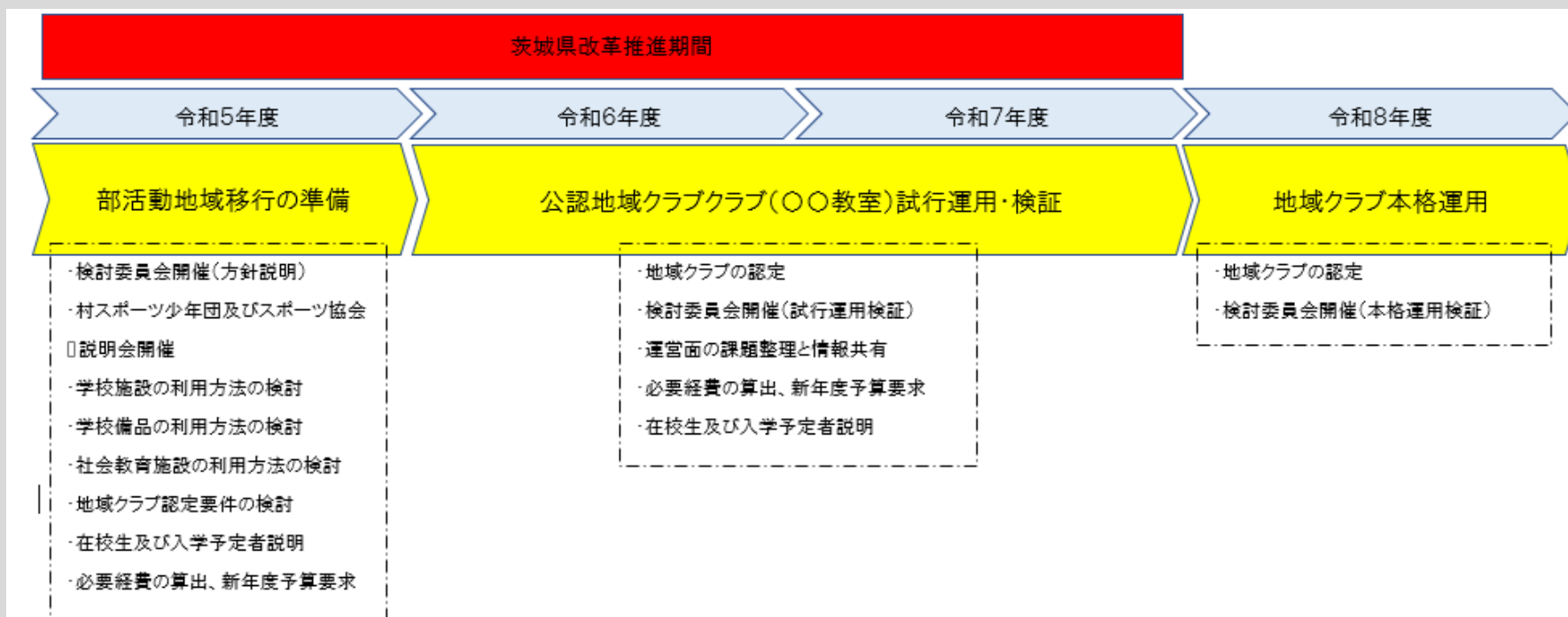
3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

<目 標>

- ・令和7年度末までに休日の部活動に関わる「教職員」をゼロにする。
- ・令和7年度末までに令和5年度当初にない部活動種目の地域クラブを二つ以上発足させる。

<ロードマップ>



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 阿見町

自治体名：茨城県阿見町

担当課名：教育委員会生涯学習課

電話番号：029-888-2526

1.自治体の基本情報

基本情報

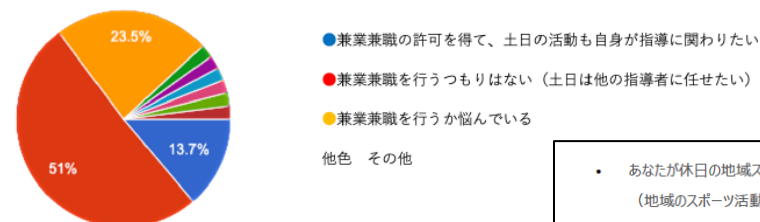
面積	71.40 km ²
人口	50,317人
公立中学校数	3校
公立中学校生徒数	1,184 人
部活動数	32 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

阿見町では3中学校（阿見・朝日・竹来）あるが、生徒数や部活動の部員数に差が出ている。近年は部員数の不足により、朝日中学校では野球部の休部、竹来中学校ではバスケットボール部が廃部、サッカー部の合同部活動化（他市町村と）となっている。また、競技経験のない教員が顧問となっている部活動もあり、学校部活動だけでは生徒がスポーツに取り組む持続的な環境を維持することが難しくなっている。

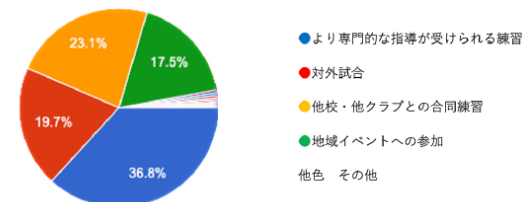
令和5年度に教員、生徒、保護者に実施したアンケートでは、51%の教員が地域移行した場合、土日の指導を他の指導者に任せたいといった結果や、生徒・保護者では部活動に入った目的が友達と楽しく活動するため、地域クラブ活動に求めるものはより専門的な指導といった回答が共通して多く見られた。

・ 部活動が地域移行された場合、あなたの指導の関わりについてどのような考えか教えてください



出典：令和5年度学校部活動現状調査
(学校教職員アンケート)

・ あなたが休日の地域スポーツ・文化活動に参加するとしたらどのような活動がしたいですか
(地域のスポーツ活動・文化活動とは、学校部活動ではなく地域団体や民間が運営するスポーツクラブや文化クラブのことです)

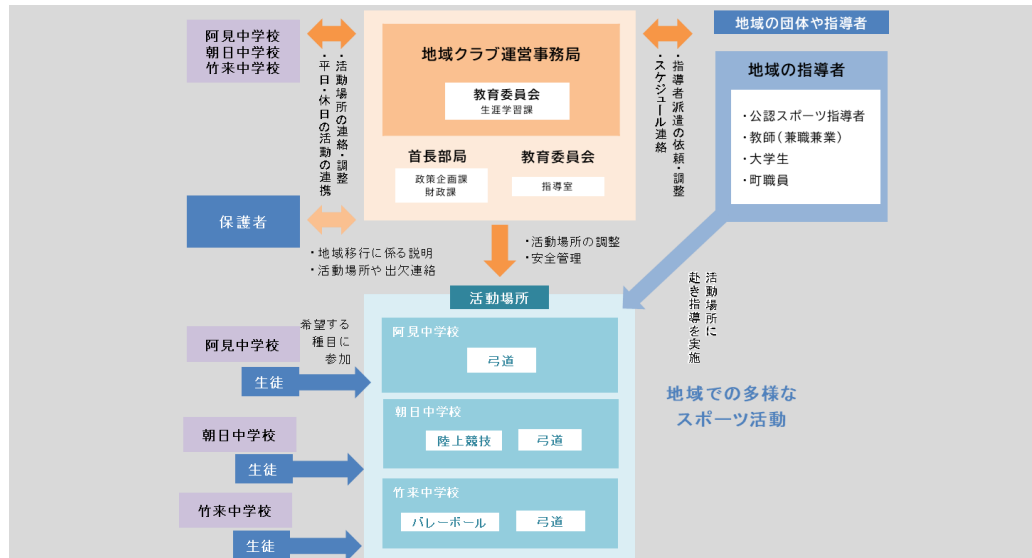


出典：令和5年度学校部活動現状調査 (生徒アンケート)

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・地域クラブの運営（活動・会員管理、指導者調整、指導者謝礼支払い等）
- ・部活動地域移行に関する検討
- ・学校との連携
- ・関係団体との連携・連絡調整

◎首長部局

- ・政策・予算に関する調整

年間の事業スケジュール

令和6年5月	教員向け説明動画・資料 町内小中学校配布
令和6年7月	兼職兼業教員希望者向け説明会 の実施 第1回検討委員会の開催
令和6年8月	保護者説明会の開催
令和6年9月	第2回検討委員会の開催
令和6年10月	地域クラブ活動（陸上競技）の 活動開始
令和7年2月	地域クラブ活動（バレーボール・弓 道）の活動開始 第3回検討委員会の開催
令和7年3月	地域クラブ活動の継続 （陸上競技・バレーボール・弓道） 次年度に向けた準備・調整

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	3クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3 クラブ（8 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	16人	全体の運営スタッフ数	3 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目	実施回数	実施 時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動 場所	指導者 数	運営 スタッフ数	会費	大会参加 方法
阿見町 地域クラブ (仮称)	教育 委員会 直営	・陸上競技 ・バレーボール ・弓道	・陸上競技・ バレーボール： 週 1 回 ・弓道：月 1 回	・陸上競技： 土曜日午前 ・バレーボール： 土曜日 または 日曜日午前 ・弓道： 土曜日午後 または 日曜日午前	・1年生：63人 ・2年生：49人 ・3年生：4人	令和 6 年 10月～	町内 中学校	16人	3人	なし	中体連・その他 ：部活動

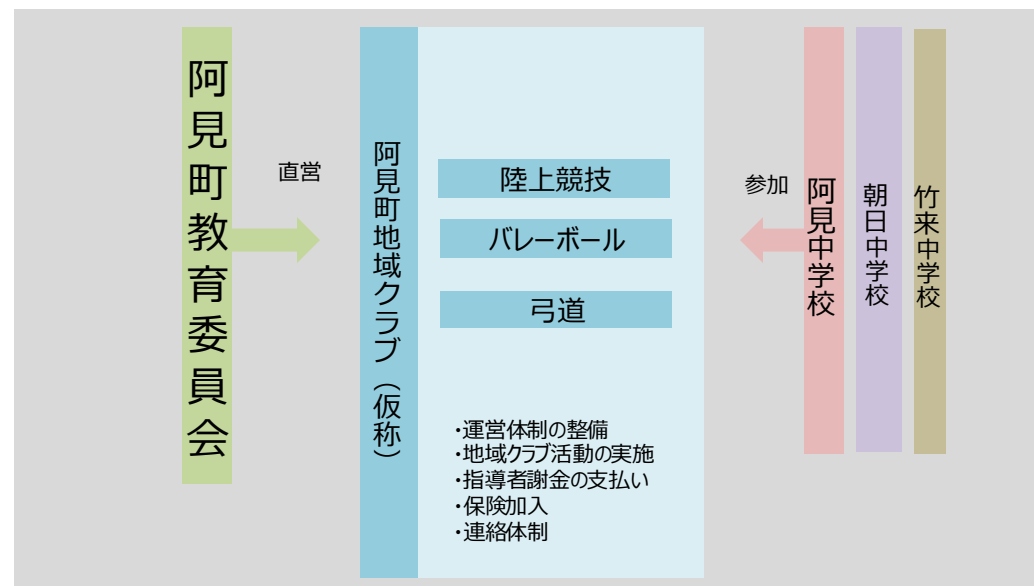
2.実証内容と成果

主な取組例

●阿見町地域クラブ（仮称）活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	・陸上競技 ・バレーボール ・弓道
運営団体名	阿見町教育委員会生涯学習課
期間と日数	・陸上競技：令和6年10月26日～月4回程度 ・バレーボール：令和7年2月8日～月4回程度 ・弓道：令和7年2月8日～月1回程度
指導者の主な属性	小中学校教員、町職員、大学生、町内在住・在勤者
活動場所	阿見中学校、朝日中学校、竹来中学校
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	なし（教育委員会負担）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者（阿見町教育委員会生涯学習課）
役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う
- 指導者 16名
役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組 地域クラブの体制整備・活動開始

取組事項

部活動地域検討委員会の設置や指導者の募集、モデル事業の実施を通して、阿見町における地域クラブの体制を整備し、活動を開始する。

モデル事業の取り組みにより判明した課題を踏まえ、令和7年度以降の地域移行に関する検討や更なる地域移行の拡大を目指す。

取組の成果

○部活動移行検討委員会の設置・開催（年3回）

○指導者募集の取り組み

- ・教員向け説明動画の配信、兼職兼業教員希望者向け説明会の実施
：兼職教員4名
- ・町内での指導者募集（メール、ホームページ、チラシ配布）：採用者6名
- ・大学生への指導者協力依頼：4名

○モデル事業の実施（地域クラブ活動開始）

- ・講座型地域移行：陸上競技
- ・拠点校地域移行：女子バレーボール
- ・各学校・各種目地域移行：弓道

上記取り組みを実施し、地域クラブが活動するに当たっての体制整備を行い、活動を開始することができた。

今後の課題と対応方針

○指導者の確保

- ・課題：モデル事業を実施した結果、指導者の確保が大きな課題となった。指導者の負担をなるべく少なくし持続可能な活動とするためにはより多くの指導者が必要となる。特に各学校を会場として活動を行う場合、1か所で活動する種目と比較し、倍以上の指導者が必要となる。
- ・対応方針：チラシ配布やその他広報媒体（町広報紙・ホームページ・メール）での継続的な指導者募集
現役大学生へのアプローチ

○学校との連携

- ・課題・対応方針：現行部活動とのスケジュール調整をより密にし、円滑な地域移行を進める。また、学校施設の鍵の管理について、今後検討・協議を行う。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度は地域クラブの開始に向けた体制整備、活動開始に重点を置き取り組んだ。

成果として、以下の事項が挙げられる。

- ・部活動地域移行検討委員会の設置・開催による関係者間での協議・意見交換の実施
- ・教員向け説明動画・資料の配信、保護者説明会の開催による地域移行・地域クラブの周知・理解促進
- ・兼職兼業教員希望者向け説明会、町内でのチラシ配布や大学生へのアプローチによる指導者募集・採用
- ・地域クラブ活動開始（陸上競技、女子バレーボール、弓道）

一方、課題としては以下の事項が挙げられる。

- ・より多くの指導者確保
- ・学校との連携（スケジュール調整・共有、施設管理）

●成果の評価

今年度の取り組みの結果、阿見町として地域クラブをスタートできたことは大きな成果である。

今年度は3種目をモデル事業と定め、種目の特性に合わせ、「誰でも参加できる講座型地域移行：陸上競技」、「拠点校を設定し合同練習を開催する拠点校地域移行：バレーボール」、「各中学校に指導者を派遣する各学校・各種目地域移行：弓道」と異なる3パターンで活動を実施した。

その結果、3パターンともメリット・デメリットがあることが確認できたが、3パターンに共通して挙げられる課題は指導者の確保であった。パターン・種目によって必要な指導者数は異なるが、指導者が必要数に満たず活動が中々スタートできない種目もあった。

●今後に向けて

上記、成果の評価に挙げた「指導者の確保」が今後の重要な取り組み課題となる。今年度はモデル事業3種目（陸上競技、バレーボール、弓道）の指導者確保に取り組んだが、今後は指導者募集の枠を拡大し、地域移行種目の増加を目指す。地域移行種目の増加については、今年度、異なるパターンで3種目実施した成果・課題を活かし、各種目の状況に合わせたパターン設定・移行方策を検討し順次実施する。

2.実証内容と成果②

広報資料

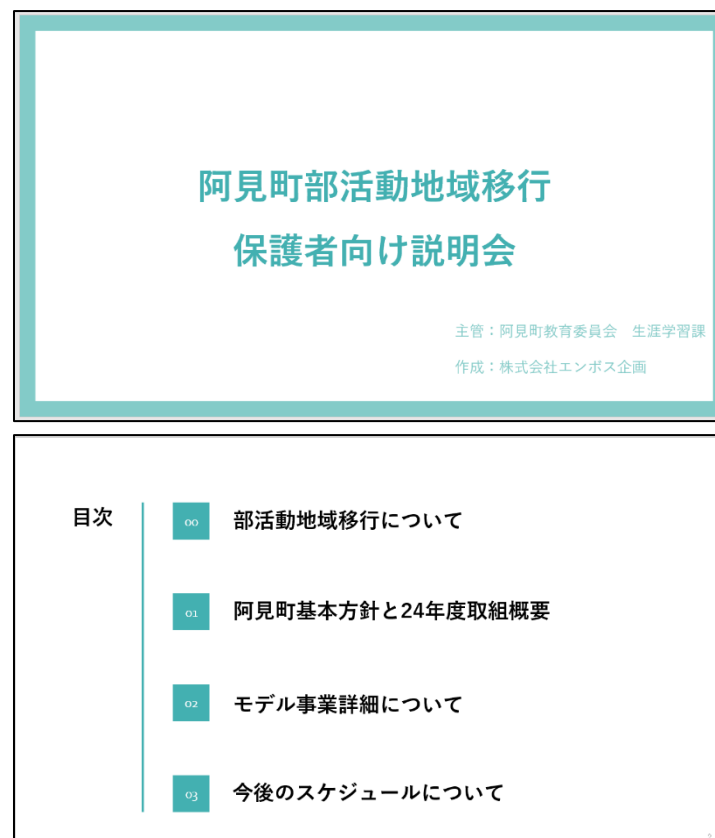
指導者募集のため、以下のチラシを町内全世帯へ配布したほか、町ホームページに掲載した。



【指導者募集チラシ】

出典:阿見町地域クラブ活動指導者募集チラシ

地域移行・地域クラブについての周知や理解促進のため、保護者向け説明会を実施した。(欠席者向けに説明動画の配信や内容を一部修正した資料を町ホームページへ掲載)



【保護者説明会資料（一部抜粋）】

出典:阿見町部活動地域移行保護者説明会資料

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



【地域クラブ（陸上競技）の様子】



【地域クラブ（バレーボール）の様子】



【地域クラブ（弓道）の様子】



【地域クラブ（弓道）の様子】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

検討開始

アンケート実施、
休日部活動
現地調査

令和6年

検討委員会の
設置、指導者の
調整

部活動顧問との
調整、生徒・保護
者への説明

地域クラブ活動
の開始

令和7年

地域クラブ活動
の拡大

●ステークホルダー

町教育委員会、学校

●経過

令和5年度より地域移行に関する具体的な検討を開始し、生徒・保護者・教員向けアンケート実施による意識調査、休日部活動の現地調査による実態調査を行い、町地域移行方針案を策定した。

令和6年度は学校、スポーツ・文化団体、保護者、教育委員会等で組織する検討委員会を設置し、町地域移行方針案や令和6年度モデル事業、令和7年度以降の方策について、協議した。

また、教員向け説明動画の配信や兼職兼業教員希望者向け説明会、保護者説明会を開催し、関係者へ地域移行・地域クラブの周知や理解促進を図った。

●実施内容

令和6年度はモデル事業として以下の3種目・パターンで地域クラブ活動を実施した

- ・講座型地域移行：陸上競技
- ・拠点校地域移行：女子バレーボール
- ・各学校・各種目地域移行：弓道

●実施にあたって生じた課題

令和6年度モデル事業の実施に当たって、指導者を必要数確保することに時間がかかり、指導者の確保が大きな課題となった。

●今後の展開

令和7年度は令和6年度実施の3種目に加え、新たに4種目程度追加し、地域クラブ活動の実施を目指す。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

目指す姿

休日部活動移行に向けた取組開始

2023年度

三種目移行

2024年度

○種目移行

2025年度

全種目移行

2026年度

休日部活動の地域クラブ完全移行

2027年度

出典:阿見町地域クラブ移行方針

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 八千代町

自治体名：茨城県八千代町

担当課名：スポーツ振興課

電話番号：0296-48-2469

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	59 km ²
人口	21,062 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	502 人
部活動数	24 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本町の中学校生徒数は、平成29年度の637人から令和6年度の502人となり(減少率21%)、少子化が進んでいる。さらに、5年後の令和11年度の生徒数は468人となることが推測されており(平成29年度比較減少率26%)、今後も高い減少率で推移していくものと考えられる。

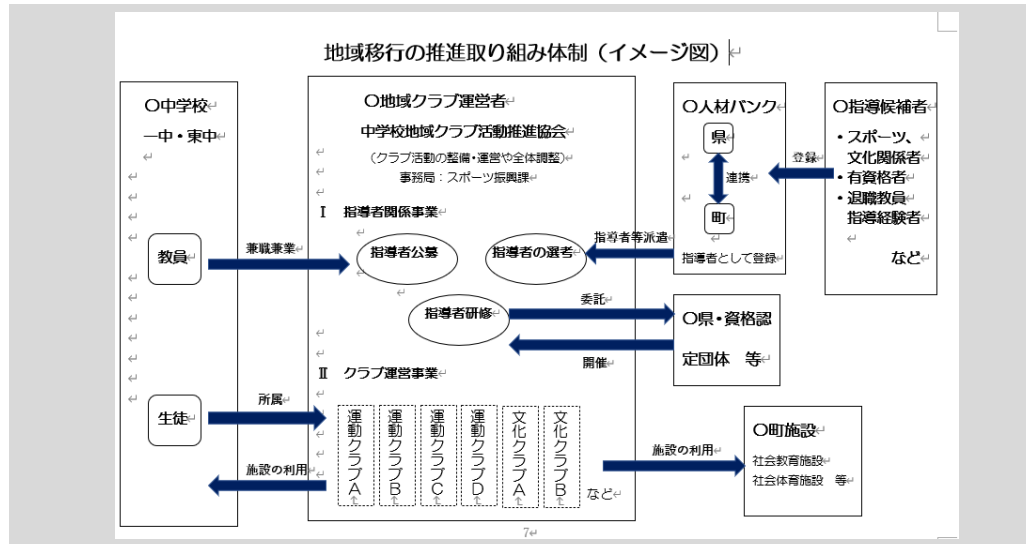
少子化は部活動の加入数にも影響しており、令和6年度の1・2年生の加入状況を見ると、全生徒数の80%の生徒が部活動に参加しているものの、全体数が少ないことから、一部の団体種目においては学校単位でのチーム編成がすでに困難になっているといえる。またチーム編成が困難になりつつある種目が出てきていることや、一中においては、生徒数の規模のわりに部活動の種目が過多になっていることなどが課題となっている。

また、近年では学校外のスポーツクラブ・団体等に所属する子どもが増加しているなど、子どもたちを取り巻く環境の変化やニーズの多様化が見られ、特に部活動における団体種目のチーム編成にも少なからず影響を及ぼしており、従来の枠組みでの部活動の維持が一層難しくなっている状況である。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

・スポーツ振興課…部活動地域移行の主幹、八千代町中学校地域クラブ活動推進協会事務局

◎首長部局

・財務課…予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年5月	第1回推進協会会議 推進協会設置 推進計画策定 運営方針決定 指導者募集要領要項決定
令和6年7月	指導者募集開始
令和6年11月	第2回推進協会会議 サッカークラブ発足決定
令和6年12月	保護者説明会 学校説明会 クラブ員募集
令和7年2月	サッカークラブ活動開始

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（2 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	3 人	全体の運営スタッフ数	8 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
八千代サッカークラブ	行政機関	サッカー	週 1 回	午前中	1年生9人 2年生16人	令和7年 2月～	町内中学校	3 人	8 人 （内、兼務8人）	月会費 0 円／ 年会費 0 円（など）	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- サッカークラブに地元出身の元リーガーを招いてのサッカー教室を実施

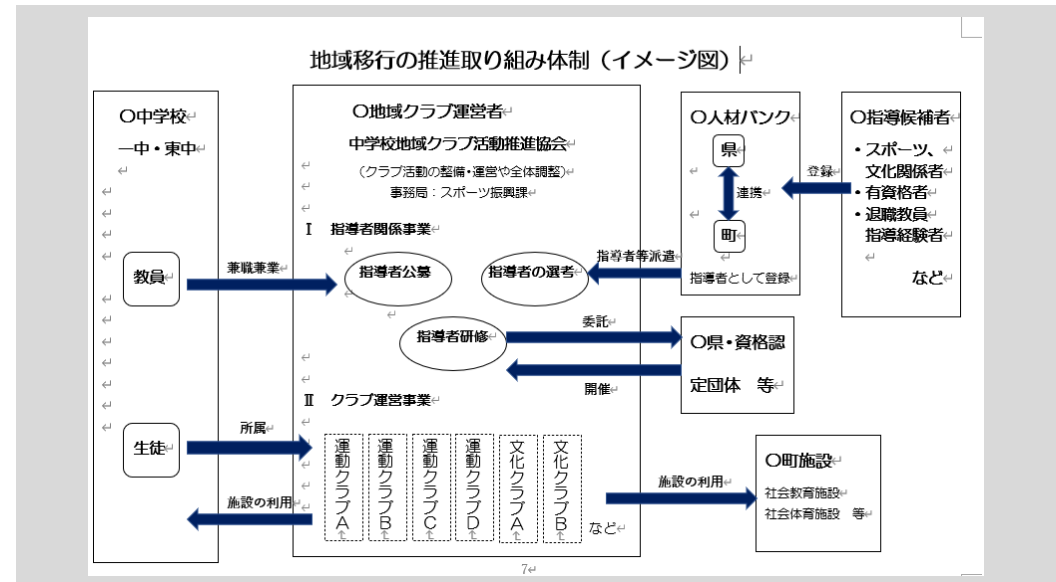
2.実証内容と成果

主な取組例

●八千代サッカークラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	八千代町中学校地域クラブ活動推進協会
期間と日数	サッカー：2月11日～3月31日 月2回程度
指導者の主な属性	兼職兼業・地域おこし協力隊
活動場所	町内中学校
主な移動手段	自転車および送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	サッカー：0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 八千代町スポーツ振興課 8名
役割：運営主体（推進協会）の事務を行う
- 指導者 3名
役割：クラブの指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

令和6年5月に八千代町中学校地域クラブ活動推進協会を設置し、八千代町中学校部活動地域移行推進計画の策定・地域クラブ運営方針および指導者募集要領要項の決定を行った。推進協会の委員には、町スポーツ関係団体の代表および町内中学校の校長、PTA会長などが所属し、連携を図っている。また、推進計画・運営方針には地域クラブの要件、責任の主体を明記している。

取組の成果

推進協会に所属しているスポーツ関係団体の代表、また学校関係者から意見をいただき、指導者人材バンクの充実、また、指導者に兼職兼業の教員を含める形でサッカークラブの発足を行うことができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・推進計画、クラブ運営方針、指導者募集要項要領の作成
- ・学校やスポーツ関係団体との連絡調整

今後の課題と対応方針

地域クラブの発足に際しては、指導者の確保、また、学校の協力が不可欠であると感じている。今後とも関係団体と連携を取りながら、指導者の確保を行い、指導者が確保できた種目から順次、学校との連絡調整を行い、地域クラブへの移行を進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

現在、指導者の募集を行い、人材バンクの充実を図っている。募集にあたっては、町ホームページへ掲載のほか、スポーツ関係団体への協力も依頼している。また兼職兼業の取組みとして、教員への説明会の実施など、学校との連携も図っている。

人材バンクの人数

24名

人材バンクの年齢構成

10代	0名
20代	5名
30代	3名
40代	3名
50代	9名
60代以上	4名

登録者属性

職業	
・パート	2名
・自営業	1名
・公務員	12名
・教員	3名
・会社員	6名

種目

- ・剣道
- ・サッカー
- ・柔道
- ・ソフトテニス
- ・卓球
- ・バスケ
- ・野球
- ・陸上

資格有無

- ・教員免許
- ・公認指導者ライセンス
- ・スタートコーチ
- など

取組の成果

本年度より指導者の募集を開始し、人材バンクに24名を登録することができた。教員や地域の指導者にも登録をいただき、その中でも登録の多かったサッカーについて、地域クラブの発足を行うことができた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

推進協会には町スポーツ協会会長、スポーツ少年団本部長、スポーツ推進委員長、学校長などが所属し、関係団体との連携の強化を図っている。また令和6年10月からは地域おこし協力も活用し、部活動地域移行への取り組みを行っている。

取組の成果

関係団体との連携はもちろんのこと、部活動地域移行について見識がある外部人材を、地域おこし協力隊として任用することで、スムーズに地域クラブの発足を行うことができた。

今後の課題と対応方針

部活動地域移行を推進していくためには関係団体とのさらなる連携強化が必要となる。また地域クラブの増加に際しては、運営スタッフの人員不足も考えられるため、ICTツールの活用など、効率的な運営方法を検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

・サッカークラブの発足に際して、
 サッカー部の保護者に対して説明会を実施した。

活動の詳細

参加人数	20 人	指導者数	3 人
属性	町内中学校サッカー部の保護者		
具体的な内容	サッカークラブの概要説明 活動頻度について 運営体制について 会費の徴収について		
関係者の声	地域クラブと学校部活動のすみわけについて 試合への参加は部活になるのか、地域クラブになるのか 送迎や当番の役割はどうなるのか		

2.実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【発足式及び講演会の様子】



【発足式及び講演会の様子】



【サッカー教室の様子】



【紅白戦の様子】

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

八千代町の地域移行スケジュール

令和6～7年度を実証事業期間として、令和8年度中を**目標**に休日の部活動の完全移行を進めます。

令和6年度

- ・推進協会設置
- ・推進計画策定
- ・指導者募集
- ・地域クラブ創設 ※1



令和7年度

- ・指導者募集
- ・地域クラブ創設



令和8年度

- ・指導者募集
- ・地域クラブ創設
- ・休日部活動の完全移行(目標)



実証事業期間

※1 令和6年度に実証事業として**1クラブ**の活動を開始します。

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 利根町

自治体名：茨城県北相馬郡利根町

担当課名：生涯学習課 社会体育係

電話番号：0297-68-2211

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	24.9km ²
人口	15,470 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	281人
部活動数	12 部活 (運動部:10・文化部:2)
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	策定済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

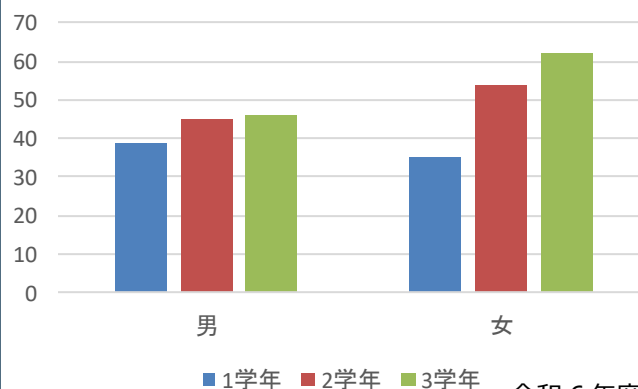
利根町は、茨城県の最南端に位置しており、中学校数は利根中学校の1校のみとなっている。

町内唯一の中学校である利根中学校は、令和6年度より全校生徒が300名を下回る中規模校で10の運動部活動（軟式野球部、サッカー部、男子ソフトテニス部、女子ソフトテニス部、卓球部、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、バレー部、バドミントン部、剣道部）と2つの文化部活動（吹奏楽部、美術部）があり、現在の所すべての部活動に複数顧問を配置し、活発に活動している。

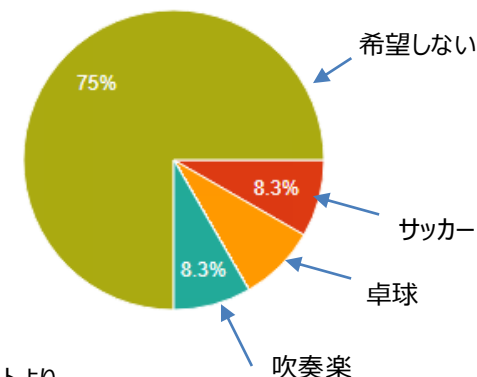
現在の地域移行クラブでは、すべての部活動を移行しており、月に2回の頻度で活動を行っている。また、活動をしない土日については、普段の部活動として実施している。

今後も少子化による生徒数の減少が見込まれるため、生徒数に応じた部活動数の精選、指導に不安を感じていたり、休日の指導を望まなかったりする教員（働き方改革）への対応を含めた部活動改革を推進する必要がある

中学生 生徒数



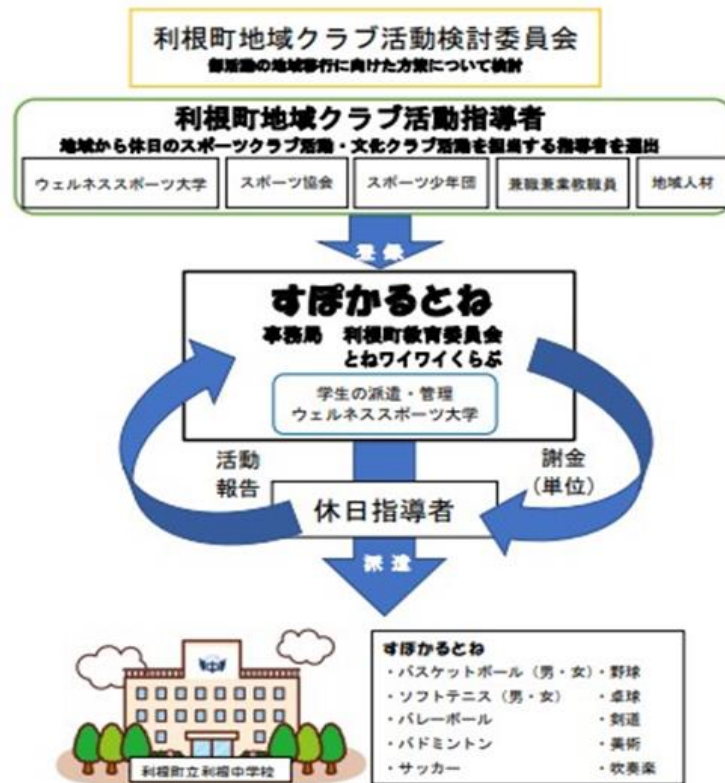
教員における兼職兼業希望者



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・生涯学習課・・・部活動改革の主幹。中学校との連絡調整。指導者、参加者保護者との事務連絡。予算等に係る事務。参加者、指導者募集の案内。保護者、中学生、教員に対し説明会の開催。

年間の事業スケジュール

令和6年5月	第1回検討委員会 開催
令和6年6月	生徒・保護者説明会 開催
令和6年7月	第2回検討委員会 開催
令和6年7月	地域クラブ活動「すぽかるとね」活動開始(月2回)
令和6年11月	第3回検討委員会 開催
令和7年1月	次年度中学生生徒・保護者説明会開催
令和7年2月	小学生児童・保護者 説明会 開催
令和7年2月	第4回検討委員会 開催
令和7年2月	令和6年度地域クラブ活動終了

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	12 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		11 クラブ（10部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1 クラブ
全体の指導者数	13 人	全体の運営スタッフ数	4 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
野球クラブ	教育委員会	野球	月 2 回	AM8:30－11:30	1年：8人 2年：2人 3年：2人	R6,7月～ R7,2月	利根中学校 第2グラウンド	2 人	4 人 （内、兼務4人）	0 円	なし
サッカークラブ	教育委員会	サッカー	月 2 回	AM8:30－11:30	1年：4人 2年：4人 3年：0人	R6,7月～ R7,2月	利根中学校 第1グラウンド	1 人	4 人 （内、兼務4人）	0 円	なし
卓球クラブ	教育委員会	卓球	月 2 回	AM8:30－11:30	1年：3人 2年：7人 3年：0人	R6,7月～ R7,2月	利根中学校 多目的室	1 人	4 人 （内、兼務4人）	0 円	なし

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
剣道クラブ	教育委員会	剣道	月 2 回	AM8:30～11:30	1年：0人 2年：2人 3年：2人	R6,7月～ R7,2月	利根中学校 武道場	1 人	4 人 (内, 兼務4人)	0円	なし
バスケットボールクラブ(男子)	教育委員会	バスケットボール	月 2 回	AM8:30～11:30	1年：1人 2年：1人 3年：1人	R6,7月～ R7,2月	旧文小学校 体育館	1 人	4 人 (内, 兼務4人)	0円	なし
バスケットボールクラブ(女子)	教育委員会	バスケットボール	月 2 回	AM8:30～11:30	1年：2人 2年：2人 3年：2人	R6,7月～ R7,2月	旧文小学校 体育館	1 人	4 人 (内, 兼務4人)	0円	なし
バレーボールクラブ	教育委員会	バレーボール	月 2 回	AM8:30～11:30	1年：1人 2年：2人 3年：7人	R6,7月～ R7,2月	旧文間小学校 体育館	1 人	4 人 (内, 兼務4人)	0円	なし
バドミントンクラブ(男子)	教育委員会	バレーボール	月 2 回	AM8:30～11:30	1年：2人 2年：0人 3年：1人	R6,7月～ R7,2月	利根小学校 体育館	1 人	4 人 (内, 兼務4人)	0円	なし
バドミントンクラブ(女子)	教育委員会	バドミントン	月 2 回	AM8:30～11:30	1年：1人 2年：9人 3年：2人	R6,7月～ R7,2月	利根小学校 体育館	1 人	4 人 (内, 兼務4人)	0円	なし

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
ソフトテニスクラブ(男子)	教育委員会	ソフトテニス	月 2 回	AM8:30-11:30	1年:1人 2年:6人 3年:0人	R6,7月~ R7,2月	利根中学校 庭球場	1 人 (男女指導)	4 人 (内, 兼務4人)	0 円	なし
ソフトテニスクラブ(女子)	教育委員会	ソフトテニス	月 2 回	AM8:30-11:30	1年:3人 2年:6人 3年:0人	R6,7月~ R7,2月	利根小学校 庭球場	1 人 (男女指導)	4 人 (内, 兼務4人)	0 円	なし
身体づくりクラブ	教育委員会	基礎トレーニング(新)	月 2 回	AM8:30-11:30	1年:0人 2年:0人 3年:0人 参加者がいない為、バドミントンと合同で活動	R6,7月~ R7,2月	利根小学校 体育館	2 人	4 人 (内, 兼務4人)	0 円	なし

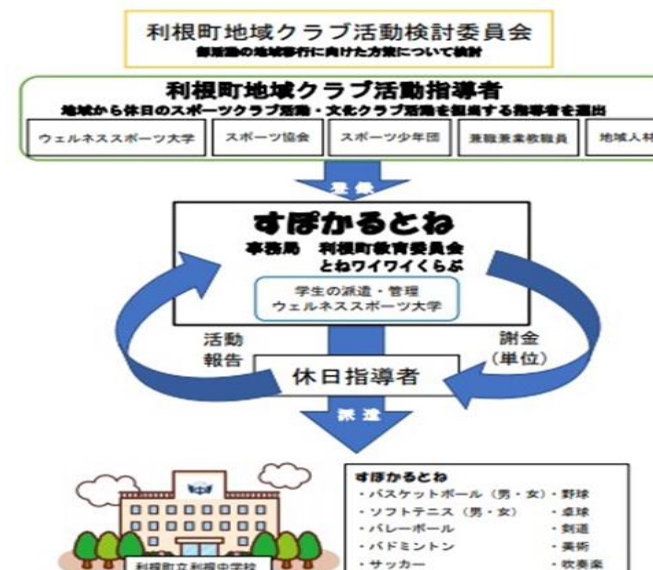
2.実証内容と成果

主な取組例

●野球・卓球・剣道クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球・卓球・剣道
運営団体名	すぽかるとね(教育委員会)
期間と日数	野球・卓球・剣道： 7月13日～2月22日 月2回程度
指導者の主な属性	野球：地域指導者 卓球：兼職兼業教職員 剣道：日本ウェルネススポーツ大学生
活動場所	野球：利根中学校 第2グラウンド 卓球：利根中学校 多目的室 剣道：利根中学校 武道場
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として学校、保護者、指導者と連絡を行う

●主任指導者 野球：2名 卓球・剣道：1名

役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

●運営補助者 3名

役割：活動において施設の管理、運営補助を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○クラブ参加者（生徒）及び指導者（兼職兼業教員，地域指導者，日本ウェルネススポーツ大学）に対して，事務局（教育委員会）がリーバー（情報一斉配信アプリ）やコミュニケーションアプリを使用し，活動参加者数，活動の可否などの情報共有を行っている。

○コーディネーターが定期的に活動現場を見回りすることで，指導者や参加者の意見や声を聴くことができる。

取組の成果

○事務局(教育委員会)が参加者と指導者の間に入ることによって管理が行いやすい，情報共有が行いやすくなった。

○コミュニケーションアプリを導入することによって，指導者と参加者の出欠席・事務連絡を簡単に行うことができるようになった。また，アプリを使うことで，参加者が事務局に意見や質問をしやすい環境を作ることができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

【総括コーディネーター】

- 定期的に各クラブを巡回し参加者・指導者の活動内容の把握
- 検討委員会の調整等を実施し，関係団体との連携に努めた
- 学校，参加者，指導者への連絡調整を実施

今後の課題と対応方針

- 参加者によっては，連絡がないことや当日の出欠席がないことがある。
- 当日，連絡のない欠席者は，事務局が電話連絡をして確認をしている現状がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

・兼職兼業教員の活用。
また、地域住民に募集を行い指導者の確保を行っている。
・町内の日本ウェルネススポーツ大学に通っており、高い技術と専門知識を学んでいる学生を指導補助員とすることで、クラブ参加者に専門的な技術や知識を使った指導補助を行っている。

人材バンクの人数

13名

人材バンクの年齢構成

10代	2名
20代	1名
30代	1名
40代	4名
50代	2名
60代以上	3名

登録者属性

職業
・会社員 8名
・学生 2名
・教員 2名
・主婦 1名

種目

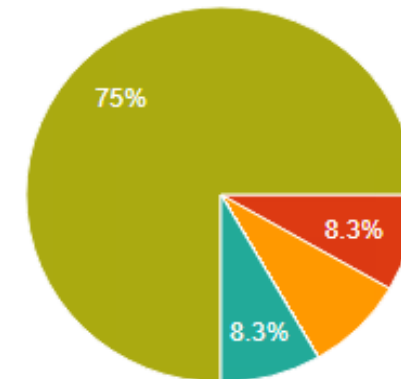
・野球 ・サッカー
・卓球 ・バドミントン
・バスケ ・バレー
・剣道 ・ソフトテニス

資格有無

・教員免許
・剣道3段
・軟式野球連盟審判員
・公認審判員1級
・健康運動指導士
・健康運動実践指導者
・スタートコーチ

取組の成果

- ・休日の学校部活動から地域クラブ活動に移行するにあたり、部活動顧問は3割弱のみ地域クラブでも指導したいという結果になった。
- ・地域クラブ活動で指導する指導者には、事前にコンプライアンス研修を受講してもらい中学生に指導を行うことの責任感を意識してもらった。
- ・日本ウェルネススポーツ大学の学生が指導者として参加することで、専門的な知識や高い技術を持って指導にあたってもらった。



令和6年度に実施した教職員向けアンケートより

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【コンプライアンス研修】

- ・対象・・・地域クラブ活動指導者
- ・目的・・・地域指導者が中学生に指導するにあたって、言葉遣いや行動を改めて研修することで、ハラスメントにつながらないために実施した。
- ・工夫した点・・・指導資格を持っている指導者から経験者まで同じように研修を受けることで、クラブごとに言葉遣いの差やハラスメントにつながらない行動の理解など指導者の意識の統一ができた。

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 7月 2日
- ・開催回数： 1回
- ・参加人数： 12人(文化クラブ含む)

受講者の声

○コンプライアンス研修を受講して、指導者として自覚のある行動が必要だと感じられた。現代の指導方法と指導者が教わった指導では、かなりの差があるため、一つの言動、行動がハラスメントにつながってしまわないように注意が必要だ。

今後の課題と対応方針

○地域指導者が指導するにあたって、経験者と未経験者・有資格者と無資格者での中学生に対する指導の差が発生しないように研修を実施する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○学校と連携して進めていくため、中学校校長会やPTA連合会等において、本町の取組及び今後の見通し等の説明を実施。

○指導者の派遣、施設の利用、研修教材の提供・講師派遣などについて日本ウェルネススポーツ大学と連携。

取組の成果

○中学校校長やPTA会長と連携し、学校の協力を求めることで、中学校の生徒に事前周知や募集チラシの配布を行うだけでなく、全校集会で活動の周知をする機会を得た。

○地域のスポーツ団体の協力を得て、地域指導者の発掘・確保を行った。

○クラブが活動するときは、指導者の負担が増えない様に、会場の施設、開場や参加者の出欠確認などを行う運営補助員の配置を必須とし、その運営補助員を地域の関係団体等から派遣することで、地域一体となって運動部活動の地域移行に向けた環境づくりを進めた。

今後の課題と対応方針

○競技団体や総合型地域スポーツクラブ、民間事業者等の多様な団体に参画してもらう必要があるため、更なる連携強化を図る。

○運営の効率化を図るため、アプリを活用した参加者の参加確認の確保について検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

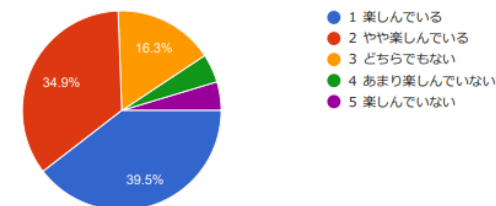
○利根町では、中学校にある部活動(11部活動)+町独自の活動(身体づくり)を地域クラブ展開し、参加者が好きな活動に参加できるように「すぽかるとね」として活動を行った。

○「すぽかるとね」は、大会参加を目的としない参加者が初めてでも楽しめるようにレクリエーション的な活動を行った。

○町内にある「日本ウェルネススポーツ大学」と連携して活動に学生を指導者として派遣してもらう等、将来指導者を目指す学生に環境の場を提供することができた。

活動の詳細

参加人数	109 人	指導者数	15 人
属性	スポーツ		
具体的な内容	○休日における、スポーツ活動の実施。 (野球・サッカー・卓球・男女バドミントン・バレー・男女バスケ・男女ソフトテニス・剣道・身体づくり) ○初心者でも参加しやすいように、レクリエーション的な活動を実施。		
子供の声	○部活動では、文化部だが「すぽかるとね」ではスポーツクラブに参加している。 ○体力・技術を向上することができた。 ○友達と楽しく参加することができた。		
関係者の声	○参加人数が少ない時もあったが、参加者が活動種目が好きなんだなことがよくわかった。 ○活動から、子どもたちにスポーツの楽しさを知ってもらえたらいいなと思います。		
運営経費	○指導者謝金 ○事務局運営し ○消耗品 ○検討委員謝金		



令和6年度実施アンケート「地域クラブ活動を楽しんでいますか」

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



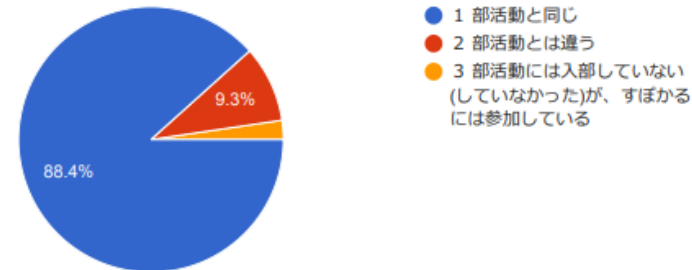
取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

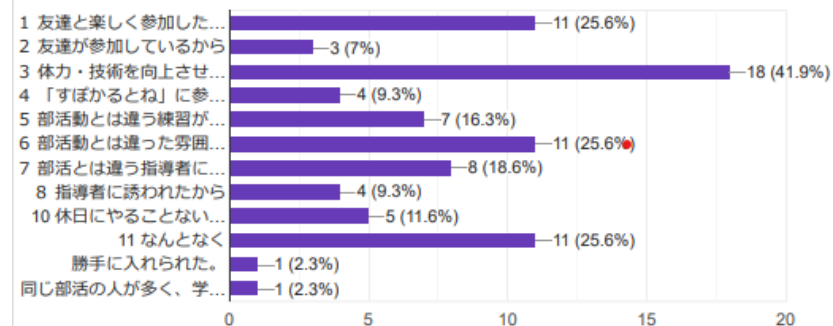
取組の成果

○令和6年度の利根町地域クラブ活動「すぼかるとね」では活動数を12クラブ展開して活動を行った。部活動から同じ活動に参加できる、また、部活動とは違うクラブ活動に参加できるようにレクリエーション的に行った。

○活動日は、月に2回程度隔週の土曜日を基本的に行い、参加は事前にコミュニケーションアプリを使用し参加の有無を確認した。コミュニケーションアプリを使用することで休みの連絡や活動の中止を円滑に行うことができた。



「すぼかるとね」に参加している種目は、部活動と同じですか、違いますか



「すぼかるとね」に参加する理由は何ですか

・令和6年度実施アンケート

今後の課題と対応方針

○町内に中学校生徒数が令和6年度時点で生徒数が300名を下回っており、「すぼかるとね」の参加者も少ない状況となっている。

○今後は、活動クラブ活動の縮小。また、今後は中学生だけではなく、小学生も参加できるような取り組みを検討する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

○利根町地域クラブ活動「すぽかるとね」では、利根中学校の体育施設を中心に活動を実施した。令和6年度は、中学校体育館が改修工事の影響で使用できなかったが、町内小学校や学校跡地の体育館を使用することで活動を行った。

取組の成果

○活動場所を学校施設にすることで、中学生の安全の確保や活動による防音問題を発生することなく実施することができた。
○野球・サッカー・ソフトテニスなどは普段から学校部活動で使用している場所で活動しており、参加者も活動しやすくなっている。



体育施設を利用している様子

今後の課題と対応方針

○普段の生活場所及び部活動の場所と同じため、地域クラブと部活動が区別できていないこともあったため、さらなる事業趣旨の理解等が必要となってくる。
○学校での活動は、鍵などのセキュリティ問題や生徒の個人物の管理など注意が必要なものが多く、破損・紛失など問題が発生しないかなど注意が必要である。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○地域クラブ活動を実施するにあたって、普段では関与することがない地域の指導者に学ぶことで普通の学校生活では経験することができない技術や専門知識を知ることができたと思われる。

○学校施設以外で活動することで、部活動とは違うこと。また、地域指導者を地域住民に地域クラブ展開を知ってもらえることができ、新しいコミュニティを作ることができる。

○利根町は中学校の生徒数が少なく、地域クラブに参加する生徒も少ない。そのため、活動するクラブ数を検討する必要がある。小学生の参加や参加していない中学生に活動内容の周知や興味を持ってもらうことが大切である。今後は参加者数の増加させるためにも検討が必要である。

●成果の評価

○今年度地域クラブ活動の展開を行って、部活動から地域クラブに展開していることを理解してもらうことができたと思われる。

○地域クラブ活動には部活動のように、引退は無く、3年生でも最後まで続けられるが、受験と勉強によって開始時期よりも最後の方は参加率が悪くなってしまうことが多かった。

○競技によっては、参加者数が少なく中止となってしまうこともあった。中学校や検討委員会と連携を図りながら、今後の活動数を決めていく必要がある。

●今後に向けて

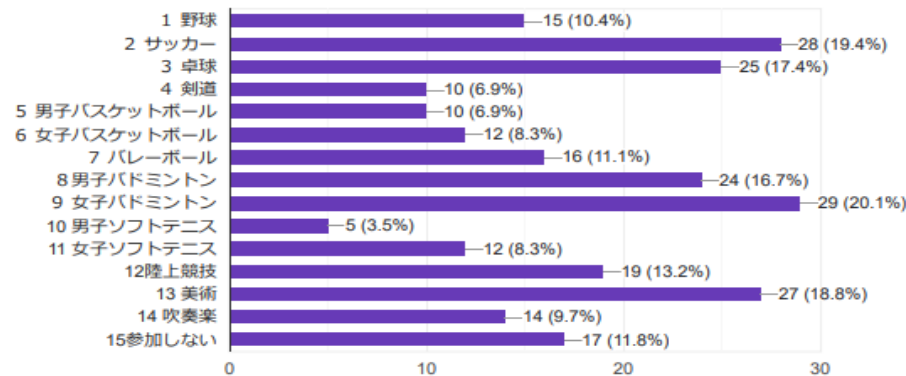
○利根町の生徒数が減少しているため、活動クラブ数も検討する必要がある。今後は中学生だけではなく、小学生もクラブに参加できるようにすることで参加者の増加を見込むことができる。しかし、中学生と小学生では技術の差だったり、参加人数が増加することで指導者の数が不足してしまう可能性がある。

2.実証内容と成果②

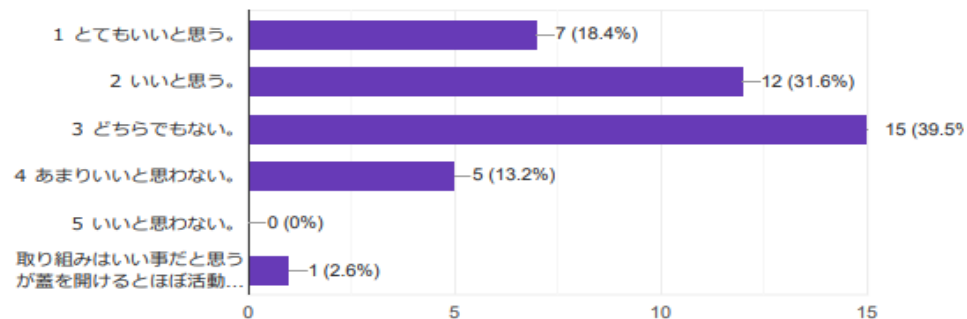
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

Q.来年度参加してみたい地域クラブ活動はありますか？(小学生)



Q.部活動から地域クラブへの展開に伴い指導者が学校の先生から地域の指導者に代わることにどう思いますか？(参加者保護者)



●指導者の声

指導者

○感覚的指導論を取り入れ、わかりやすい野球を指導目標として活動させていただきました。部活動以外の野球を楽しんでプレーしている姿、また部活での試合で活躍できたことがとても嬉しく思いました。

指導者

○初めての指導で、迷いながらでしたが、中学生の明るさで、楽しく過ごせました。

指導者

○参加人数は少なかったものの、参加する子供たちはバスケが好きなことはよくわかった。

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



【ソフトテニスクラブ】



【野球クラブ】



【バスケットクラブ】



【バドミントンクラブ】